



Title	復帰準備（対内）（政府調査団派遣等） - 防衛庁 （4）（堀江陸上幕僚部副長他訪沖46年10 / 6 ~ 10 / 10 外務省外交史料館レファレンス番号：H220877）
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(2)No.3 公開日：平成22年11月 26日 外務省外交史料館管理番号：B'5.1.0.J/U24 CD・ DVD番号：H22-006
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43394
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

堀江陸上幕僚部副長他 活弁
0/6
5
10/10

46年

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (極秘・秘の朱印) 平	符号表示 略 略 (平)	総第 27 198 号
	第 2173 号	昭和 46 年 9 月 27 日 20 時 17 分宛
大至急・至急・普通・LTF		発電係

大 臣 政 務 次 官 事 務 次 官 外 務 審 議 官 外 務 審 議 官 官 房 長	主 管 アメリカ局長 参事官 北米第一課長	主管局部課(室)名 アメリカ北米第一課 起案 昭和46年9月27日 起案者 古田 電話番号 2458
--	--------------------------------	---

協議先
安全保障課長

在米牛場 (大使) 臨時代理大使
総領事 代理 外務大臣 発
あて 臨時代理

在沖繩高瀬 (大使) 臨時代理大使
総領事 代理 電報 あて

件名 航空自衛隊機の沖繩乗入水許可取付(訓令)

1. 今般防衛庁より、同庁陸上幕僚副長陸
将堀江正夫他2名が、在琉球米陸軍
司令官の招待に応じ、在沖繩米軍施設等
視察のため10月6日より10日まで下記2.
の飛行計画で沖繩に出張の予定です。

(※印欄内は電信機記入)

(昭和四二・七二改正)

GB-1

漢

済

169

198

右に示す米側の入域許可取付方
要請趣意 ~~左~~ 左つて、本件米側に申入
水の上、結果回答ありなり。

2. (1) 使用航空機
LR-1型 1機 (東部方面航空隊所属)
機番 JG-22002 (コールサイン、
J.G. 2002)

(2) 機長及び乗組員
丹羽喜久雄 2等陸佐 以下2名

(3) 飛行日程
6日 09:00 横田発
14:10 那覇着
10日 10:00 同 発
15:00 横田着

なお、本件については防衛庁より在日
外務省

GB-3

198
3

米軍司令部と非公式打合せが少く趣
 中継に転重した。

(3)

GB-3

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政事外外儀官
 務務典房
 次次
 臣官官審審長長
 儀給入電厚計
 書文会営給

調査長
 領移長
 参企析調
 参領旅査移

ア 参地中東
 長 北東西
 米 参北北
 中南 参一二
 参西東洋
 長 西東

近ア 参書近ア
 長 次総経国資
 経 源
 長 参貿統国
 経 参政技一理
 協 国企二
 長 参協規
 国 参政経科
 長 軍社専
 情 参道内外
 長 文長
 一二

総番号(TA) 50505 主管
 71年9月29日17時45分 米 国 発着
 71年9月20日07時37分 本 省 着 北

外務大臣 殿 片場(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

防犯斉機の中継集入の許可

ホ308/号 平
 資電米地/ホ2173号と同一
 防犯斉機の中継集入は29日空軍
 省より許可された。
 中継に転重した。

(3)

外務省

秘密表示 (朱印)

部数指示	宛信用	執務用	備考
主信	/	/	2
付			
係	ミヨキ付属添付		

発送日
処理日
送信日

昭和46年9月30日

文書課長 (印) 公 信 案 (分類)

公 信 第 227 号 公 信 昭和 46 年 9 月 30 日 日 付

大 臣	主 管	起案 昭和 46 年 9 月 27 日
政 務 次 官	アメリカ局長 大塚中	起案者 古田 電話番号 2497
事 務 次 官	参事官 〇	
外務審議官	北米才一課長 〇	
外務審議官		
官 房 長		

協議先

朱長才 〇

受信者 在沖繩 高瀬大尉

発信者 外務大臣臨時代理

写送付先 (希望送付日) 9 29

件 名 防衛庁職員の沖縄出張 (通報)

GA-2 外務省 回覧番号 2557

米北/第227号
昭和46年9月30日

沖縄復帰準備委員会
日本国政府代表 殿

外 務 大 臣

(件名)

防衛庁職員の沖縄出張 (通報)

引用公・電信 日付・番号 米北/ (2173) 9月29日付 往電外 271号

冒頭往電をもって通報の防衛庁陸上幕僚副長 堀江正夫陸将他2名の豊地出張に關する防衛庁より要請書筒字を付属資料 各1部別添送付す。

※ 付属添付 付属空便 (行) 付属空便 (DP) 付属船便 (貨) 付属船便 (郵)

GA-2-1 外務省

(※印は文書課記入)



安全保障課長

アメリカ局長

参事官

北米一課長

官総第2554号

46.9.27

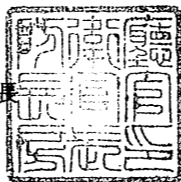
陸上幕僚監部第2部長 陸将補 塚本勝一
陸上幕僚副長付副官 1等陸尉 仲森澄

外務省アメリカ局長 殿

添付書類：別紙第1「出張日程表」

別紙第2「沖縄渡航計画」

別紙第3「経歴書」



防衛庁長官官房長

陸上幕僚副長の沖縄出張に伴う航空機の沖縄
乗入れ等について（依頼）

当庁陸上幕僚副長陸将堀江正夫は下記の者を随行し、
在琉球米陸軍司令官の招待に応じ、在沖縄米軍施設等
視察のため、昭和46年10月6日から同年10月10
日までの間別紙第1の日程により陸上自衛隊機（LR-
1型）で沖縄に出張することになりました。

つきましては、出張期間中における便宜供与、特に
日程の細部についての調整及び防衛庁連絡官（三木1
等陸佐）の同行並びに別紙第2の沖縄渡航計画に基づ
く航空機の沖縄乗入れ手続についてよろしくお取り計
らい願います。

なお、沖縄渡航計画については、在日米軍司令部と
調整済であります。

記



防衛庁関係者に対し、少し余裕を
とって依頼する旨連絡 (古田)
9/27

沖縄渡航計画

- 1 目的
陸上幕僚副長一行の空輸支援のため
- 2 航空機
 - (1) 機数
1機
 - (2) 型式
LR-1型
 - (3) 機番
JG-22002 (コールサイン: J.G. 2002)
- 3 乗組員
 - (1) 機長、乗組員等
付紙
 - (2) 期日
46.10.6(水)~46.10.10(日)
 - (3) 所属
東部方面航空隊
- 4 飛行日程

月日 区分	10/6 (水)	10/10 (日)
時 程	0900 出国手続(横田)	1000 那覇発
	横田発	1150 鹿屋着
	1200 鹿屋着	1150 給油
	1200 給油	1210 鹿屋発
	1220 鹿屋発	1500 横田着
	1410 那覇着	入国手続(横田)

- 5 給油等
 - (1) 燃料
JP-4
 - (2) 量
600ℓ (那覇)
 - (3) 決済方式
月間相殺方式
 - (4) 酸素
10.6ℓ × 1,800 lbs / INCH² × 2 (気体酸素)
- 6 宿泊、給食
乗組員は、基地内宿泊とする。(那覇BOQ)
- 7 その他
航空機の駐機は、那覇飛行場とする。

大政事外外儀官
 務務典房
 次官審審長長
 儀儀人電厚計
 書文会営給

調査長
 参企析調
 領移長
 参領旅査移

ア 参地中東
 長 北東西
 参北保
 中南
 参一
 参西東洋
 長 西東

近ア長
 参書近ア
 経次総経国資
 長参質統国
 経協長参政技一理
 参多
 参協保
 長国参政経科
 長特長参道内外
 文長一二

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 52630 主管
 71年10月11日11時25分 沖 純 発 米地/
 71年10月11日11時5分 本省 着

外務大臣殿 高瀬 (大使) 臨時代理大使 総領事 代理

陸上ばく僚副長の来ちゆう

第1057号 略 至急

貴信米北/第227号に関し

1. ホリニ陸上ばく副長他2名は10日午前10時全日程を終え離ちゆうした。なおホリニ副長は9日午後マラ主席と約1時間にあつて会談したところ、その際の主席の発言要旨次の通り。

(1) おきなわ戦の体験、26年間の異民族支配等おきなわの特殊事情をふまえて、これらの上に立つた施策が必要であり、高圧的な態度は妥当でない。

(2) 基地は米国の施政権下において設立されたものであるから返かん時には当然旧のすがたにして返さるべきであり、それが困難ならば縮小の方向に努力すべきである。然し現在の処縮小はしないといわれ、それに自衛隊が加われれば基地強化となり不安は続く。

(3) 基地が現状のまま軍労務者が解雇されることはその合理化経費が基地強化に使用されていると考えられている。

秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

(4) 安保条約に反対するのは「けん民ふくしが第2次的に考えられている」ことに対する反ばつである。

(5) 自衛隊の配備はけん民感情を考慮に入れしん重に実施してもらい度、復帰と同時に6800の配備は妥当でない。

(6) 「実際に如何にしたらまいか」の副長の質問に対し、おきなわ情勢をよく見究めつつしん重に、具体的にはマタヨシ、三木の両連絡官とも相談してやりたい。

(7) 返かん協定ふんさいをきけぶ声もあるが、返かんが2-3年延びてもよいと考えるものは少ない。

(8) 副長より、おきなわに配備される自衛隊の編成装備等はけん民ふくしを考えさい書派遣、民生協力に十分役立つよう配慮している旨、具体的数値をあげ説明したところ、主席もこれを了とした。

(了)